

29

虫刺されの過剰反応
について医療の
小ネタ

「虫刺され」と「虫刺されの過剰反応」は違います。

蚊に刺されれば誰でも痒いですよね、それは単なる虫刺されで、ムヒやキンカンが効く世界です。

それに対し、アレルギー体質の人の皮膚が、（季節の変わり目などで）普段より敏感になっているときに虫に刺されると、虫の毒素とアレルギーのダブルパンチで強い痒みが出て、痒くて掻くと刺されていない所にも広がります。

さらに、単なる虫刺されと比べて痒みが強いだけではなく、同じ場所の痒みが何度もぶり返します。

この厄介な病態を「虫刺されの過剰反応」と言います。

虫刺されの過剰反応では、赤みが強いことも特徴です。

これは炎症が深い所まで及んでいるからであり、そこまで浸み込む薬でなければ効きません。

ムヒやキンカンだけではなく、一般的な湿疹の薬も効果があまり無いので、風呂上がりで皮膚に薬が浸み込み易いときにstrongestのステロイド外用剤を用いることになります。

さらに人によっては、夜間の痒みを抑えるための内服薬が必要となる場合もあります。

過剰反応を起こした人は、その後どの虫に刺されても過剰反応をきたしますので、処方された外用薬は必ず分かる所にとっておいて、刺されたらすぐに擦り込みましょう。

早ければ悪化する前に消すことが出来ます。

